

王康紀念文集

第一卷

立原道造全集

第一卷

詩集 I

立原道造全集

第1巻

詩集Ⅰ



1971年6月20日 初版發行

著 者 立 原 道 造

發行者 角 川 源 義

印刷者 中 村 武

製本者 鈴 木 俊 一

發行所 角 川 書 店

東京都千代田區富士見2の13の3郵便

番號102 TEL 東京(265)7111(大代表)

振替東京 195208 信教印刷・鈴木製本

亂丁・落丁本はおとりかへいたします

0392-572301-0946(0)

目次

詩集 萱草に寄す

SONATINE NO. 1

はじめてのものに

またある夜に

晩き日おその夕べに

わかれる晝に

のちのおもひに

夏花の歌

その一

その二

SONATINE NO. 2

虹とひとと

夏の巾ひ

忘れてしまつて

二四 二三 二六 二六

二五 二六

二六 二六 二六

詩集 曉と夕の詩

I 或る風に寄せて

II やがて秋……

III 小譚詩

IV 眠りの誘ひ

V 眞冬の夜の雨に

VI 失なはれた夜に

VII 溢れひたす闇に

VIII 眠りのほとりに

IX さまよひ

X 朝やけ

詩集 田舎歌

I 村ぐらし

II 詩は

III 一日は……

三

四

哭

哭

吾

三

吾

吾

吾

吾

吾

六

三

詩集 優しき歌 I

燕の歌

うたふやうにゆつくりと……

六 七

薊の花のすきな子に

I 憩らひ

八四

II 虹の輪

八六

III 窓下樂

八八

IV 薄明

九〇

V 民謠

九二

鳥啼くときに

九四

甘たるく感傷的な歌

九六

ひとり林に……

I ひとり林に……

一〇〇

II 眞冬のかたみに……

一〇三

浅き春に寄せて

一〇四

詩集 優しき歌 II

序の歌

二〇八

I 爽やかな五月に

二一〇

II 落葉林で

二二三

III さびしき野邊

二二四

IV 夢のあと

二二六

V また落葉林で

二二八

VI 朝に

二三〇

VII また晝に

二三三

VIII 午後に

二三四

IX 樹木の影に

二三六

X 夢みたものは……

二三八

拾遺詩篇

子供の話

二三三

初冬（身動きの出来ない程の）

二三六

小さな墓の上に	一四
燕の歌	一四
静物	一五〇
枯木と風の歌	一五三
旅装	一五五
風のうたつた歌（その一〜九）	一五七
風のうたつた歌（その一〜三）	一六三
天の誘ひ	一六七
風に寄せて（その一、二）	一七〇
傷ついて、小さい獣のやうに	一七四
雲の祭日	一七六
離愁	一七八
夏の旅（I〜VII）	一七八
雨の言葉	一八五
夏の巾ひ	一八七
旅の手帖	一九〇
孤獨の日の眞晝	一九三
葬送歌	一九四

天の籠	一九六
切抜畫	一九六
夏へ	二〇〇
フアンタスチック	二〇二
ヴァカンス	二〇四
八月旅情の歌	二〇五
旅人の夜の歌	二〇六
みまかれる美しきひとに	二〇八
夜想樂	二一〇
風と枯木の歌	二二三
逝く晝の歌	二二四
ゆふすげびと	二二六
豫後	二二八
追憶	二三〇
石柱の歌	二三三
不思議な川邊で	二三四
初冬(けふ私のなかで)	二三六
晩秋	二三〇

ふるさとの夜に寄す

歌ひとつ

午後に

歌ひとつ（——暗い心の夕ぐれに）

何處へ？

夜に詠める歌

わがまどろみは覺めがちに

或る晴れた日に

初夏

草に寝て……

風に寄せて（その一〇五）

月の光に與へて

麥藁帽子

唄

魂を鎮める歌

二三

二四

二五

二六

二七

二八

二九

三〇

三一

三二

三三

三四

三五

三六

三七

後期草稿詩篇（*印は仮題詩）

荒物屋の軒先で*	二七四
八月の歌（一〜五）	二七六
BALLADE	二八二
小さな墓石の上に	二八四
燕の歌（二）	二八六
旅装	二八八
夜の歌（私は薔薇や）	二九〇
海よ*	二九六
夏の旅——エリザの記念に	二九八
夜でない夜に	三〇二
田中一三に（1〜3）	三〇四
黄昏に	三〇
ひとり林に……	三三
私の貧しさは*	三四
晩春	三六
窓邊に凭りて	三八
夢のあと（嘗てを）	三三
徑の曲りで	三四

夕映の中に	三六
夜 泉のほとりに	三八
一日	三〇
私のかへつて来るのは*	三六
優しき歌―光の中で	三六
地のをはりの*	三四〇
僕は おまへに―夜の歌*	三四四
それが どういふことか―夜の歌*	三四六
昨日と今日とがいきりまじる*	三四八
この闇のなかで*	三五〇
北	三五三
アダジオ	三五三
風 詩	三五三
恢復	三五五
静 物	三五六
どこの空だつたのだらう*(I、II)	三五九
詩 抄(1、3)	三六〇
くりひろげられた 廣い 野景に*	三六六

優しき歌

三六

優しき歌―旅のをはりに

三七〇

風のうたつた歌（その一―四）

三七三

子守唄

三七六

灼ける熱情となつて*

三七八

朝に

三八〇

南國の空青けれど*

三八三

解説

三八六

「風信子叢書覚書」について

三八九

編註

三九二

萱草に寄す

風信子叢書 第一篇

